

# 資料1

## 第2回検討会での意見整理

# 1. 施策を進めていく上での着眼点と具体策等に対するご意見

## (1) 認知の拡大と伝え方の工夫

### 心の状態の表現について

2. 課題の「認知」は、知識、信念、規範など心の中の状態を表すものをこの言葉だけできちんと表現できているか？ 心に働きかけるものももっとあると思う。

### 地域の恵みとリスクを伝える

地域には、恵みとリスクがあることの現状と、その歴史を伝えることが事例紹介に共通していた。防災教育、伝承碑、指標化、レジリエンスの数値化、デジタル媒体など、様々な対象に対して様々な手法があり、それをどう伝えるかに工夫がある。

## (2) 自分事化の機会創出と手段

### 教育課程に防災への備えを

SDGsと流域治水は関係が深い。国民自身が水害や地震などに対応していくため、教育課程に防災への備えを入れることが大事。倉敷市は、公民館講座などで、昔経験した水害のことを話していただくことを含め、防災教育を行っている。

### 域外から来た人の対策

高校、大学や観光客など、域外から来る人たちが、水害や地震が起きた時にどうすればいいかを考えるなど、そういう観点の対策も必要と思っている。

### 人と人をつなぐ仕掛けを

とりまとめたり、ひっぱりまわしたり、上下流、官民、民民など、人と人をつなぐいろいろな仕掛けも必要だと、たくさんの事例で学んだ。

### 流域治水・まちづくり・農業と生態系保全がバランスした絵を描く

河川法には、利水、治水、環境があるが、それと似ていて、狭義の流域治水（洪水から守る話）、地域の資源を利用する中のまちづくりと農業、それと環境の生態系、これのまずは絵を描くことがある。

### 現地の課題を把握し分析する仕組みを

自分事化は、行動につながるワンステップ前で、態度を作ることだと思うが、事例によって内容が異なる。地方の事務所など、現場の人がわかっている課題を吸い上げて分析する仕組みがあった方が、国レベルでは必要ではないか。

### 政府からの発信の重要性とメディアの活用

政府が本気であることを、国土のことを考えている人が発信した方がいいと思っている。1段階目としては、メディアを巻き込んだ展開で特番を作ってもらいなど、国からの積極的な発信があるべきかと思う。そのベースがあるからこそ、人々が情報を取得する心の準備に入れ、キーパーソンやインフルエンサーからの発信も活きる。

## (3) ターゲットの把握と絞り込み

### 具体施策の進め方

取組の優先度と役割分担を考えるのは大変重要な指摘。一方で、地涌の菩薩という考え方もあるのではないかと思う。両方をうまく組み合わせていく必要がある。

### 避難弱者を対象とした施策を

おそらく、地域文化を創るといった話と、最後に本当に取り残される避難弱者がリンクしていないと思うので、避難弱者の問題については別途切り出して検討していくことが重要かと思う。

### 子供自身が考え家族を巻き込む

地方都市では家族のつながりが強く、子供が学校で学んだことを家族で一緒にやって取り組む。それが一つのきっかけとなって家族全員の防災意識が向上する。防災教育は、記憶を伝えるだけではなく、将来の地域を支える子供自身が中核になって考えていくことが大事。

※家庭における取組は効果的。男子は現場で燃え上がるが冷めも早く、女子は家で経験したことを話していて、それによって自分事化していくようなジェンダー差もあるが、家で取り組むことは大変重要。

## (4) 主体的な取組が進むための環境整備

### 戦略的に社会の雰囲気を変えていく

社会のモードを変えなくてはならないそこを強く意識する必要がある。一定のメジャーな層が変われば、相転移は起きそうな気がする。

公衆衛生的、行動経済学な要素も必要なのだろうと思う。コロナの時に、いろいろなメッセージで私たちはコントロールされていた。「仕向ける」ためにはそういった視点も必要。

### 個人を把握できる規模の取組

特に2001、2年生まれの皆さんが参加する、人が成長するプロセスに関与する講座を作る上では、大人数の講座を作らないようにしている。自分事化を進める上で、行政など仕組みを創っていく側に、「個人を認めてくれている」ということ、「安全な方向にいざなってくれている」、「流域治水を通して自分のことを見てくれている」というような感覚が備わっていると、確かに自分もそこに関わっていった方が安全だと思うようになる。

### 心で感じて心で動く

人は心で感じて心で動く。メカニズムが理解できなくても必要だと思えば動く人もいる。より多くの方が自分事化をしていくためには、企業で言うとTCFDの取組がそうかもしれないが、心理的なところに論点があるのかもしれない。中小企業から個人まで、社会の雰囲気を変えていくには、どうしたらよいか考える必要がある。

ロジック、必要性と正当性で人は動かず、興味、関心、不安などの情動がないと行動しない。情動は、ポジティブなものもあるが、同調圧力や恐怖・不安も強く作用し、後者の方が効くことも大きい。知っていないと・やらないとカッコ悪い、やらないと後ろ指をさされる気がする、という状況になると人は大きく動く。

### 必要以上に情報を渡さない

流域や住んでいる場所に興味があまりない人と、地域に出会って地域に関係することが楽しい人は、実は近いのではないかと思う。山形県小国町のプログラムでは、初めて来た人が殆どで、小国町がいい場所だと感じて、そこから自分で関わっていくプロセスをとる。事前情報を渡さないで地域に関わってもらった方が、それを自分のものとして構築できる。必要以上に情報を渡さないことも大事なのかなと、少人数の講座で経験したこととして思う。

## (5) 持続的に流域治水を推進

### 暮らし・生活者を含めた農村コミュニティ機能の維持

「農業組織に対する啓発、機能維持」が項目として挙げられていてありがたく思う。土地改良区や水利組合のような、農業組織に対応する啓発や機能の維持はもちろん大事だが、農家はその生活者でもあるので、組織の機能だけではなく、農村コミュニティとしての機能、集落機能を維持することが大事になるのではないかと。農業だけでなく、暮らし、生活者を含めた機能の維持が大事ではないか。

### 社会全体を良くすることで賛同者と支援者を

D-ismプロジェクト(第1期の成果はレジリアル)はマネタイズが目的ではなかった。賛同6社は、個社の利益のためにであれば賛同しなかったと言われた。これも自分事だが、「社会に対して何ができるか」がすごく大事なのではないかと。広い意味で物事を捉えて対応する方が、実は大きな賛同者と支援者が出るのではないかと感じた。

### 儲かる流域治水も

地方自治体では、人口減少でいろいろな機能が失われていく。農家の後継者がいなくなった比較的安い土地が宅地化されることもあり、今でも、3m以上の浸水深のところでは宅地化が増えている。そういう状況下では、やはりそのまちが栄えないといけな。社会に対して何ができるかが本質で、「儲かる」はプラスアルファだと思うが、両方ないとなかなか国全体、地域全体まで対策が進まないこともあるかと思っている。

### 他者への思いやりと上下流の関係構築

いかに他人を思いやるかが大きな要素。大崎市の事例では、昔は水害が起ると、「ありがとう、下流への被害が最小限におさえられて」と、下流から船がきておにぎりを分けてくれるという。上下流の関係ができていく。水を全体で飲むために、痛み分け、他人を思いやることを、流域治水の絵にどう入れたらよいか? そういった思想も大事なのではないかと思う。

### 全国的に自分事化が進む仕組みづくり

知識があることが大前提だが、必要性の認知と自分事化の間に、国としてどんな仕組みを作ることができるのかが大事。

国と個人・企業との間に入る、特に、水害対策に取り組みなくても直接ディメリットはないが、取り組みれば下流側にメリットのある上流側の自治体をどう巻き込むかが一番の問題。

今後続く議論の中で、「国として、市町村に対して何ができるか別途考えていく」と今回明言できるかどうか、このタイミングで市町村の興味関心を引く上で重要なポイントだと思う。優遇施策、補助金を出せるのは県や市町村で、アクションのスイッチがそこにある。

他の自治体にとってのメリットになるかもしれないことを行ってほしいと働きかけることは、これまでない施策のほう。メディア的なインパクトもあり、大きな話題性もあるはず。仕組みの作り方によっては、全国的なムーブメントを生み出せる大きなチャンスになると思う。

### 自然な感じで前に進み地域文化が創られる

流域を単位とした地域文化を創っていくことが最終形で、その中でそれぞれの地域、人々が適正な行動、取組をしていくことが目標像だと思う。いろいろなチャンネルでの取組が必要だが、「自然な感じ」が一つのキーワードかと思う。いろいろなセクターが自然な感じで、文化をみんなで創っていくというのがある。

## 2. 骨子作成上のご意見、まとめ

### 3. 取組方針と4. 具体施策の対応

2の課題と3はよく見ると薄いグリーン  
の線で結ばれているが、3と4の関  
係が見えにくくなっている。ここは1  
対1の対応ではなく入れ子になってい  
ると思うが、取組方針施策の関係が示  
せれば分かりやすくなると思う。

### 心を揺さぶる取組を

議論を踏まえて具体の施策を考えていく。  
今日の議論も骨子の中に盛り込んで、施策  
としてどういうものになるのか、次の委員  
会で議論したい。キーワードとして、「心  
を揺さぶる」ことが全体に流れていたと思  
う。それを中心に据えながら、具体の施策  
を進めることを考えていければと思う。

### 主体と関係性の明確化、展開の可視化

3. 取組方針の「②他者」が誰か、「③理解し行動して  
もらう」のは誰かなど、主体が明確になるとよい。また、  
「⑤基準化」についても、意味合いが分かるようにする  
必要がある。「ターゲット」、「トップランナー」とい  
う言葉についても、どのような人なのか誤解のないよう  
にする必要がある。

「幅を広げ、質を高める」についても、どこで幅を広げ、  
どこで収束させていくのか表現できるとわかりやすい。

「②他者を巻き込む」、「④トップランナーの育成」は  
似ていて、それから「③理解し行動してもらう」に移行  
していき、③には濃淡ができて、濃いものは⑤基準化を、  
薄いものには補助していく形で別れていくのではないか。

総じて、「3. 取組方針」は、内容や主体別に分けたり、  
行を複数にするなど工夫が必要。「2. 課題」の「認  
知」から「行動」のレイヤーと、「3. 取組方針」の5  
段階(①~⑤)は、個別の4. (1)~(5)よりも肝  
になると思う。これだけで1枚にできるくらいに作りこ  
めると良い。